

持続可能な社会づくり～SDGs 達成を目指して～

なごや環境大学の第4期ビジョンの柱の一つである「持続可能な社会づくりに関わる知識・情報・地域の情報」の提供を目指し、多様な主体と協働して、講座やイベントを実施しました。SDGs 達成を意識して取り組んだ2019年度の環境大学の講座・イベント。ピックアップしてご紹介します。

主催事業・主催講座

お買い物からSDGsを知る！ 「環境白書から実践へ」

7月9日(火) 190名参加

【会場】愛知学院大学 名城公園キャンパスアガルスホール

【講師】五十嵐祐介氏(環境省大臣官房環境計画課課長補佐)

【ゲストスピーカー】堀尾速人氏(仲建設株式会社代表取締役)、鶴田紀子氏(株式会社鶴田商会 Eco-Branch)、後藤裕一氏(株式会社大翻 代表取締役)

●共催:環境省中部地方環境事務所、愛知学院大学名城公園キャンパス地域連携センター

環境白書を元に、世界・日本の動向を学びつつ、SDGsの基礎や、「お買い物」をキーワードに地元中小企業から実際の取り組みなどについて発表をお聞きしました。企業の方にも多くご参加いただき、「仕事の参考になった」との声もいただきました。



なごやの環境平成史

11月30日～2020年2月8日(全4回) 294名参加

【会場】名古屋市環境学習センターエコパルなごや バーチャルスタジオ(第1、2回)、名古屋国際会議場1号館133(第3回)、愛知学院大学名城公園キャンパスアガルスホール(第4回)

【セミナー講師】大場和生氏(中部大学非常勤講師)、浅井久美氏(環境カウンセラー)、杉山範子氏(名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター特任准教授)、涌井史郎氏(「なごや環境大学」学長、愛知学院大学経済学部特任教授)

●共催:名古屋市(第3回)、愛知学院大学名城公園キャンパス地域連携センター(第4回)

平成から令和へ改元された本年。本講座では、「大気測定と化学物質(第1回)」に始まり、「資源循環と市民協働(第2回)」、「地球温暖化と緩和適応策(第3回)」、「生物多様性とSDGs(第4回)」と、様々な角度から、取り組みを振り返り、持続可能な未来に向けて環境の視点を創り出しました。



SDGs に向けての協働型のしくみづくりに関する 自治体ミーティング

2020年1月10日(金) 22自治体 33名参加

【会場】名古屋市環境学習センターエコパルなごや

【コーディネーター】千頭 聡(「なごや環境大学」アドバイザー、日本福祉大学執行役員、藤前干潟協議会 会長)、松本イズミ(「なごや環境大学」実行委員会実行委員、NPO フィトラボ代表)

「SDGsを総合計画や環境基本計画にどう取り込むのか」「多様なセクターと協働型で実施する方法は？」など、課題を共有しながら意見交換を図るとともに、情報交換のネットワーク作りを目的に実施しました。すでに取り組みをはじめている自治体の事例発表ののち、グループに分かれて悩みや課題を共有し、気づき等をディスカッションしました。共通の課題をもつ同じ立場の方々が集まって率直に情報交換できる機会となりました。



ユース事業

エコワカ会

9月22日(日) 学生及び社会人ユース 11名参加
 【会場】名城大学名古屋ドーム前キャンパス(北館 1F ムーガーデンテラス)
 【参加学生及び社会人ユースの所属】
 愛知大学、愛知学院大学、愛知淑徳大学、愛知東邦大学、南山大学、名城大学、
 飛騨五木株式会社

環境について語り合うワカモノだけのコミュニティ「エコワカ会」を開催しました。ユースチームに所属する学生及び社会人ユースが、環境に興味がある若者を集め、意見交換や情報交流の場をコーディネートし、若者同士のネットワークを広げました。また、環境というテーマを媒体とし、「若者」と「若者」をつなぐ「輪」となっていくイメージを表現したシンボルマークも作成しました。



SDGsPARTY ～ワカモノがワカモノをつなぐ～

11月9日(土) 学生及び社会人ユース 11名参加
 【参加学生及び社会人ユースの所属】
 愛知大学、愛知淑徳大学、愛知東邦大学、名城大学、飛騨五木株式会社、株式会社ナック
 プランニング

「若者が若者に発信する」ため主催事業「SDGsPARTY」を開催しました。SDGsに料理やカードゲームといった楽しみ要素を織り交ぜ、若者同士が交流しながら環境問題について考える場を作り、SDGsや環境学習の必要性を参加した若者に訴えかけました。



森林プロジェクト事業

森イキ！デザインプロジェクト

8月3日(土)～2020年1月18日(土)
 延べ224名参加(設楽プログラム全5回161名、なごやサテライトプログラム全3回63名)
 【会場】設楽町神田区森林、神田ふれあいセンター、エコパルなごや
 【プログラムディレクター】杉野実(「なごや環境大学」実行委員会実行委員、M¹ Project デザインプロデューサー)
 【協力】設楽町神田区、特定非営利活動法人三遠南信 Maido 倶楽部、田口森林組合、奥三河木材協同組合

森林での活動による環境保全とくらしをテーマとした新プロジェクト。地域や森林のことを知り、体験しながら森林の課題整理や魅力を発見した参加者が、アイデアを出し合い、森林活用のアクションまで“デザイン”していきました。

基本プログラムとして、設楽町神田地区にある一つの森を実験場に、参加メンバーは山道から川べりまでの小道づくりを行い、イベントの企画や森を活かす持続的な仕組みづくりまで発想を広げた提案をまとめました。また、なごやでもより多くの人が森について学べるよう「サテライトプログラム」を企画。神田産の木材を活用したワークショップなどを実施しました。

事業の様子や参加者のデザイン提案をまとめた活動報告書を発行し、専用サイトでも情報を発信。プロジェクトの「見える化」を意識して進行しました。

